

## 市長懇談会子育て世代の意見として

相武台小学校 PTA 役員補佐 宮田亜美

この度は、貴重なお時間を頂きましてありがとうございます。  
ただいまご紹介頂きましたが、今回相武台地域の子を持つ親の一人として、また相武台地域をより良くしたい者として少しお話をさせていただきます。

まず私は、相模原市が好きです。相模原で育ち結婚して、一度 10 年程離れましたが子を育てる環境としてやはり相模原で育てたいと思い主人を説得して、3 年程前にこちらに戻ってまいりました。

こちらにきて、子供がいるおかげで昨年度より PTA 役員という立場で地域の方が今考えている実情を知りました。きっとこれは、この立場でなかったら中々わからなかった事だとおもいます。

この地域の住民として、高齢者と子供がもっとふれあえる場所があればと願っています。この地域は現在子供より高齢者のほうが多いですが、元気な方が多いと見受けられます。子供は人数は少ないといえど、とても元気です。外の公園でも皆にぎやかに楽しく遊んでいます。

ですが、その中には夜も一人、お休み中も一人という子も実際にいます。ご高齢の方が輝ける場所があり、子供が少しの時間でも独りにならずに、不安にならずに遊びにいける場所があればもっと素敵な街になるのではないのでしょうか。

現在、数多の市町村で廃校を活用した施設運用が増えておりますが、先日、千葉県にある保田小学校という道の駅へ行ってまいりました。そこは、廃校になった保田小学校を道の駅にし、朝市や宿泊場所、飲食店にしているものでした。平日にもかかわらず飲食店は朝から長蛇の列、宿泊場所はキャンセル待ち状態でした。

今年、10 月には幼稚舎が開園、空き教室を利用したコワーキングスペース、ドックランが新設されるそうです。また、来年公開映画のロケ地にもなりました。街の望みとしては定住者を増やしていきたいとのことで、私たちと思いは一緒だなと思いました。

体育館を利用したスペースでは朝市をやっており、地元の方が作った野菜や花、梅干し、アクセサリー、漬物が売っており、ご高齢の方が元気に買いに来たり働いていました。子供達もコミュニティールームで遊んでいたり親子で日帰り入浴に来ていたり笑顔でした。私の娘も宿泊施設の教室で黒板に絵を描いたり机に座ったり一日中楽しみ、数日後にはまた行きたいと言っておりました。

3年前に  
もどいて  
来た。

令和8年度にもえぎ台小が廃校となりますが、こういった施設ができてほしいなと感じております。相武台地域には周りに観光施設がないというご意見も聞いておりますが今回私が保田小学校にいった理由はその場所で給食が食べれる、学校に泊まれるというのがあったからです。目当てがそこだったのでほぼ観光無しでもゆっくりできて楽しい場所でした。

大人も子供も分け隔てなく毎日いれる場所というのは市と住民の方が協力し合えば時間はかかっても創る事はできるのではないかと考えております。

さて、今、お話しさせて頂いたのはあくまでも数ある内のおおまかな一例です。

この他にも、私たちは、一人一人希望やアイデアを沢山持っております。

最初の一步として、是非、市の職員の方にそこに住んでいる住民のアイデアを聞く時間を設けて頂けないでしょうか？

ここにいる方々は、年に何時間も地域をよくしようと無償で地域の為に話あってくれております。それは自分が住んでいる街が好きだから、ずっと住んでいたいからです。

あえて二度言わせて頂きますが、私たちの持っている希望を一度聞いていただきたいです。

高齢者が希望を持ってないのではなく、人生100年時代をいつまでも輝き続ける場所を、子供達に我慢させるのではなく、希望をもった大人の背中をみて安心のもてる空間の提供を切に願っております。

長くなりましたが、以上で私の話を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

話用時間 4分 ~ 4分15秒程.

## もえぎ台小学校閉校後の施設活用について

今年1月に行われた昨年度の市長懇談会で一度提案した表題につきまして、今年度の懇談会におきましても再度閉校施設活用に関する事柄を議題として提案する事が望ましいと相武台まちづくり会議での意見がありましたので、前回に引き続き私、溝口とPTA代表の宮田さんでご提案をさせていただきます。

前回のもえぎ台小学校の跡地において、文科省管轄の『みんなの廃校プロジェクト』という国庫補助金制度を活用した跡地利用ができないかという提案をもとに、メディアに注目され他市にも誇れるような新しい取り組みができればと考え、例として

『ファミリーDIYセンターの設置』

『地域食堂の設置』

『民間のフリースクールの誘致』

『合宿等が可能なバスケットボール専用体育館の設置』

等を提案しておりました。

提案をさせて頂いた後、私自身もどのような活用法が最適か？また公民連携の事業はどのような過程を経て前に進むのが望ましいのか思いを巡らせておりました。

私事ですが、我が家には2人の娘がおります。上の娘Aは大学2年生相模女子大学で幼児教育を専攻している学生です。下の娘Bは小学6年生で市内の小学校に通っております。

Bの夏休みが終わり、新学期が始まってしばらくしてからBはつつかと私のところにきて『ねえ？なんでうちは夏休み何処にも連れて行ってくれなかったの？』と明らかに犯罪者を見るような目で私に詰め寄って来ました。学校ではだれだれちゃんが沖縄に行ったとか、だれだれちゃんは海外に行ったとか・・・スポーツクラブの運営と学童保育の事業を行っている私にとって夏休みは繁忙期でありとても旅行になど行けるはずもなく、申し訳ないと思いながらも、じゃあどこにいきたい？と返すのが精一杯でした。

すると娘は即答で温泉に行きたい！！と返してきました。やりとりを聞いていた妻は私が宿泊するほどの休みが取れない事情を察してBにすかさず『じゃあ日帰りで行ける温泉があったら行こうか？』と提案してくれました。私の頭の中では横浜町田インター近くにある万葉の湯をイメージしていましたが、スマホで検索してくれていた妻が『相模原にも温泉があるんだね？しかもこれパパが話してた学校の跡地を利用しているみたいよ』・・・

え？そんなところがあったのか？

スマホの画面を確認すると【藤野やまなみ温泉】と表示されています。この温泉、相模原市に住んで20年以上たちますが一度も行ったことはありません。私の周りで話題に上ることもありませんでした。全くノーチェック状態な私の胸は学校跡地というキーワードも重なり何かヒントがあるかもと期待が膨らみます。

『よし！次の日曜日に行ってみよう！』

10月8日（日曜日）、午前中にダンスレッスンを終えたBが帰宅するのを待って3人で温泉に向かうことになりました。カーナビをセットすると相模原愛川インターから圏央道に乗りお隣の相模原インターを出てプレジャーフォレスト（旧相模湖ピクニックランド）方面へ下道を進んで行くルートです。その後プレジャーフォレスト目の前の信号を左折して細い林道のような峠道を進みます。なかなかの険しさに期待がだんだんと不安に変わっていきました。『こんな道の先に本当に温泉があるのか・・・？というかほとんど人が住んでいる様子がない』『あったとしてもお化け屋敷のような佇まいだったらどうしよう・・・』『そういえばこのあたり相模原メールマガジンのお知らせでクマの出没痕跡ありの情報が出されていたあたりではなかったっけ？』私の不安に2人も同調している様子だったので、『もしダメだったらプレジャーフォレストの中にも温泉あるから戻れば大丈夫』と話しながらなんとか進みました。

ようやく険しい登り道を抜けて大通りに出ると同時に180度Uターンする形でやまなみ温泉に到着しました。到着が午後2時だったので、空いているだろうと思いきや駐車場はほぼ満車状態。わにわにと人が入り口に吸い込まれていきます。この時点で不安は消えて期待に変わっていきました。

入口を入ると天井高のあるホールのような形状で中央にお土産などの陳列があり、正面上部に大風の展示、入口左手には食堂が併設されている作りになっており、大風展示の下、左右に分かれて更衣室の入り口につながる形になっていました。更衣室の手前で出たら落ち合う時間を確認して私は男湯へ進みました。更衣室内も清潔に保たれていて一安心。キーのロッカー番号を確認しながらロッカーにたどり着くとやまなみ温泉ではコインが要らないロッカータイプ。この時点で個人的にプラス点。未だに100円入れた挙句最後に100円戻ってくるロッカーシステムに何の意味があるのか声を大にして訴えたい。そんなことを考えながら浴室に入るとびっくり。内湯に浸かれるスペースが空いていない程の満員状態。まだ午後の2時なのに・・・とりあえず洗い場で全身を洗い上げることにします。体を洗い終えても内湯に空きがなさそうなので、露天に移動、こちらもほぼ満員ですが、運よく一人が上がりなんとか湯船につかることができました。お湯はやわらかくちょっとぬるめな印象を受けました。後から来た2人組もちょっとぬるめだねーと話していました。私は湯船につかりながら子供にはこれぐらいの温度が最適だろうなーとかじっくりゆっくりつかるにはこれぐらいが良いのかな？とか、温度の好みには個人差があるから、温泉の温度で人それぞれ満足度も変わってしまうのかな？そう考えると温度設定は重要だよな・・・とかとりとめもなく考えながら15分程露天の湯船を堪能したので、そろそろ内湯に浸かれるかな？と中に戻ってみるも相変わらず満員状態。温度だけ確かめようと内湯に手だけ入れてみるとおそらく露天と同じ温度だなと確認はできたので、早めに体を拭いて上がることにしました。

私は昔から入浴後の着替えにじっくり時間をかけるタイプで、脱衣所の椅子に座り扇風機

の風を浴びながら火照った体を冷まします。その間、先程考えていた温泉温度の件が再度頭をよぎります。万葉の湯はもうちょっと温度が高いよな・・あれは何度ぐらいだろう・・そういえば万葉は湯河原や熱海から温泉運んでいるって書いてあったよな・・・・運んだら温度下がるだろうからもう一度火を入れているのだろうか・・ん？万葉が温泉運んでいるってことは、温泉出ない場所を温泉にしているってことだよな・・？

てことは・・  
同じ市内のやまなみ温泉から、もえぎ台小に温泉運べたら・・面白いことになりそうな予感がする。ここより圧倒的に人口密度の高い相武台、もえぎ台小で『あの本家やまなみ温泉から新鮮なお湯を輸送しています！！』という触れ込みで人が入るようになれば、本家のやまなみ温泉にとってもWINWINになるよな・・帰ったら色々調べてみよう。

そう考えて温泉を後にしました。帰り道のナビでは相模湖インターから中央自動車道を通って圏央道相模原愛川インターを目指すルートになりました。

相模原は思った以上に広い事を実感したのと同時に、本村市長の顔が浮かび同時にこんなに隅まで相模原全体の事を考えなければならない行政担当の方々にも頭が下がる思いが沸き上がりました。

自分自身も相模原の現状をもっと理解したうえで提案を作らなければ手前勝手なわがまま提案になる気がして帰ったらもっといろいろ調べてみようとの思いを抱きました。

帰ってから相模原市の現状人口分布をはじめ、やまなみ温泉の指定管理者制度モニタリングシートを読んで温泉の経営状態を把握しようと努めるなどしてみました。いろいろと調べた資料はまちづくり会議委員の皆様にも共有して頂きたいと添付しました。

ちなみに温泉は100メートル掘るのに1000万

そもそも出るのかの調査も含め、結局のところ掘っても満足な泉質を確保できるかは運しだいのところがあるようです。やまなみは1800メートル掘っているようなので、掘って安定的な泉質を確保するのに最低でも2億以上かかっているのではと推測しました。

仮にもえぎ台小で宿泊施設を伴う事業を行うならば、いずれにせよお風呂の問題に行き着くので、万葉の湯方式が市内の施設で確立できればとても有効であると考えます。

跡地でやりたいことを希望的観測でつらつらと述べてしまいましたが、今後増えてくると思われる閉校施設の活用に関する新たな枠組みなども含め、活用法と用土地の問題など様々な課題もクリアしていかなければ実現しないことは重々承知しています。

まちづくり会議委員の皆様方も別紙の通り個々に素晴らしいアイデアや案を出されています。まずはこのあと発言のある宮田さんのお話も聞いて頂いたうえで、是非とも地域での閉校施設活用が実現できるように、跡地活用におけるその方向性を定める公民連携したプロジェクトチームの立ち上げをお願いして、私の発言を終わります。ご清聴ありがとうございました。

